

AV

2010

April

4

2010年=3D元年

Phile
web
AVレビューが
コンテンツマガジン

VGP
ビジュアル
アワード
2010
SUMMER

VGP
2010
SUMMER
デジタルカメラ
マガジン

平成22年4月25日発行第27巻第4号年12回1通巻184号 | ISSN 0289-6044

オールカラーAVマガジン：月刊AVレビュー

REVIEW

定価**980円**

総力特集

映像新時代に乗り遅れないための

3D パーフェクトガイド

3Dハード/コンテンツ情報満載

3D BRAVIA debut!

第2特集

日本の
BDは美しい!

第3特集

デジタル時代の
ストレージ&アーカイブ術

第4特集

クオリティ&
ネットワークを極める

PS3編

ネットワーク
対応
AV
マガジン

「肉食系女子」としての キャロル・キング

「つづれおり」が発売されてしばらく経った頃、キャロル・キングのファンである五輪真弓がLAの彼女のセッションに参加した。帰国してFMの音楽番組に出演した五輪が「キャロルってどんな人ですか？」と訊かれて、一瞬の沈黙の後に「動物的な女（ひと）です」と答えた。それは中学生だった私の心に悩ましい波紋を生んだ。「つづれおり」や「ライター」のジャケットの化粧つ気がなく洗い髪の彼女はいかにも「好きそう」である。「つづれおり」の一曲目「空が落ちてくる」（発売当時の邦題）が恋のときめきというより性的なエクスタシーを歌っていることは、いたいけな中学生にも分かった。愛やセックスを率直に歌い上げるのは女性シンガーソングライター皆に共通するが、ローラ・ニーロやジョニ・ミッチェルの硬質で透明感のある歌声と対照的に、キャロ

Carole King Tapestry

今回の名盤

キャロル

『つづれおり』(1971)

作曲家として、ソロシンガーとして時代に残る数々の名曲を残したキャロル・キング。そのセカンドアルバムである本作は、全米チャートに15週1位という商業的成功を取めただけでなく、時代を超えて歌い継がれる名曲を取録、ポップミュージックにおけるシンガーソングライターという型式を確立させた歴史的な1枚である。原題は「TAPESTRY」。2010年4月には盟友ジェイムス・テイラーと共に武道館で来日公演を行うことが決定している。

<通常版CD:MHCP-257> ¥1,785/ソニー・ミュージック、<SACD:EPICESGA509>廉盤/EPIC Records



名盤とオーディオ^{第3回} Part 2

取材・執筆/
大橋伸太郎

～ピュアオーディオで聴く名盤ロック～

現代のスピーカーシステムが名盤たちをどのように蘇らせるのか。

ビートルズ編に続く、「名盤とオーディオ Part2」

ロックの巨人たちが歴史に残した様々な名盤を、厳選されたスピーカーシステムで味わいつくす!

ルの声は粘りっ気があって肉感的で生々しい。自分より体温のほんの少しだけ高い大人の「おんな」がそこにいた。当時は「肉食系女子」なんて言葉はなかったけど……。しかし、そのキャロルが次回作「ミュージック」の一曲では、「今度ばかりは（立ち直るのに）少し時間がかかりそう……」（注）と10代の少女のように失恋の痛手をしおらしく歌っているのではないか。ウン、これがオンナの可愛さなのだ、と中学生はボンと膝を叩いて納得したのであった。

キャロルの代表作「つづれおり」は彼女の作品中でも、同時代の他のアルバムと比較しても飛び抜けた傑作である。曲想自体は作曲家時代とそれほど変わっていないが、彼女が世に送り出したポップスの華やかな衣装を取り除き、ホーンやエレピを使わず穏やかなアレンジと生ピアノの弾き語りで感情豊かに歌い上げるバラード集である。女なら思い当たる人生の哀歎が力強い重量感で歌い上げられてい

る。シンガーソングライター時代到来という時代の潮目を読んだ確信的な作品でもある。しかし、録音作品として聴いた場合、難点があった。キャロルの声は魅力的だが70年代の価値観では「悪声」である。それをカバーするためにフィルタが掛けられ、モコモコして声の地肌が今一つ聞こえなかった。SACDでかなり改善されたが、元来の録音がそうだから困る。現代のオーディオで「憧れの年上女性」と再生するにあたり、女盛りの芳しい息がかかるような再生を、とかつての中学生が今中年男は考えたのであった。

新鋭MM01Aが 歌声の芯に肉薄していく

今回、白羽の矢を立てたのが、コンパクトブックシェルフの新星エヴィデンスのMM01Aである。パイオニア製PTRシリーズ直系のコストの掛かったスーパートウイーターとモガミ製4・5インチウーファーで構成した2ウェイでネットワーク

今回のスピーカーシステム

mhi EVIDENCE MM01A

¥84,000

ビュアアルミ製リポントウイーターを採用、通常のコンパクトスピーカーよりも高くクロスオーバーさせ、120kHzという超高域再生を実現。高高度でありながら超高解像度を実現した「音楽の魂」を持つ2ウェイスピーカー。

<SPEC> ●形式：2ウェイ・2スピーカー ●ユニット：115mmウーファー×1、リポントウイーター×1 ●周波数特性：65Hz～120kHz ●能率：90dB ●インピーダンス：4Ω ●外形寸法：152W×247H×229Dmm ●質量：4.0kg ●問い合わせ先：サエコムス㈱ ☎03-3588-8481



は高品位かつ最小限、ウーファーはスルーで使っている。堅牢なエンクロージャーも工夫が凝らされている。設計者はアルテックのファンと聞く。リボンの特長を矯めないカラリとした明るい抜けも、キャロルのボーカルを再現する上で好相性である。MM01A中心に別記のシステムでSACD「つづれおり」のなご、透明感、解像感が歌声の芯、質感に従来になく肉薄するのは期待通り。それだけではない。「つづれおり」の楽曲は、前後作の「取り揃え感」に比較して歌をしみじみと聞かせる趣向、バックの控え目な演奏が特徴だが、ギターとピアノのユニゾンなど70年の西海岸の音楽の香りを粒立ち良くクローズアップして聴き手を楽しませる。

ジエームズ・テイラーとのジョイントコンサートが4月に日本で予定されているが、一昨年の「ウエルカム・トゥ・マイ・リビングルーム・トゥアー」をNHKホー

ルで聴いた。「つづれおり」からタイトル曲を除くほぼ全曲を歌って演奏したが、60年代に作曲家として最初の夫ジェリー・ゴフィンと共作した曲のメドレー（ザ・モンキーズに書いた「フリーザン・ヴァリー・サンデイ」等々）が面白かった。興味深かったのは「チェインズ」はメドレーに含まず単独で演奏したこと。いうまでもなくザ・ビートルズがLP「フリーズ・ブリーズ・ミー」でカバーした曲である。（オリジナルはザ・クッキーズ）ビートルズがカバーしたこの曲は彼女にとっても別格ということだろう。

(注)「イツ・ゴーイング・トゥ・テイク・サムタイム」の中の一節。ザ・カーペンターズに提供した曲で、発売当時は「しなやかな冬の若木の小枝のようになりたい」という変な邦訳題名が付けられていた。

レファレンス

CDプレーヤー	ACCUPHASE DP-600
プリメインアンプ	E-560
スピーカーケーブル	SUPRA SWORD